

令和8年度 東京都立青梅総合高等学校(全日制課程) 学校経営計画

<p>1 教育目標と目指す学校像<スクールミッション></p>	
<p>【 教育目標 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自主・・・自ら学び考え、行動する人間を育てる。 ○創造・・・個性と創造力豊かな人間を育てる。 ○探求・・・自己の在り方生き方を探求する人間を育てる。 ○開拓・・・自らの人生を開拓する人間を育てる。 ○貢献・・・産業社会や地域に貢献する人間を育てる。 <p>【 スクール・ミッション 】</p> <p>「自主」「創造」「探求」「開拓」「貢献」を教育目標として掲げ、なりたい自分に向けて学習し、自分の未来を切り拓く教育を推進します。広大な校地を活用して生命の大切さを指導するとともに、海外の高校生等との交流を通じて国際感覚を身に付け、将来自信をもって社会で活躍できる人材を育成する。</p> <p>◇グラデュエーション・ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 3年間の教育活動をとおして、総合学科としての理念を具現化するために、グランドデザインに示した育成すべき10項目の力を重視した意図的・計画的なキャリア教育を創出する。 ② 公共の場でのマナー・ルール、TPOを踏まえた身なり、所作、相手の立場に配慮したコミュニケーションができるなど、自律し、主体性をもった生徒を育成する。 ③ 養護教諭、特別支援コーディネーター、スクールカウンセラー、精神科医との連携の下、教職員が生徒理解に努め、心と身体を健康づくりを推進する。 ④ 地域自治体、各種団体等との連携を図り、イベントへの参加、公開講座の実施等の社会貢献活動、奉仕体験活動、ボランティア活動を推進し、協働力を身に付ける。 ⑤ 訪日外国人高校生の受け入れ、姉妹校であるドイツ・カントギムナジウム校との相互交流、さらに海外修学旅行の実施等、生徒が直接外国人と触れ合う機会を作ることにより、日本の伝統文化への理解を深め、外国の文化を理解しようとする態度を育成し、表現力、応用力、探求心を身に付ける。 ⑥ 通級指導などを通じ特別支援教育の推進・充実を図るとともに「コミュニケーション」「感情のコントロール」「自己理解」などが苦手な生徒に対し、その実態に応じた指導を行い、一人一人の学習上・生活上の困難を改善・克服をさせ、将来の社会自立や社会参加を目指す。 <p>◇カリキュラム・ポリシー</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全ての教科において、主体的・対話的で深い学びをとおして生徒の思考力、判断力、表現力を培い、実現力を身に付ける。開拓精神をもって自ら考える生徒を育成する。また、電子端末を活用するなど家庭学習を習慣化することにより、探究力を身に付け、生徒の確かな学力の定着を図る。 ② 農業必修科目を学び、自然や環境に触れ体験することにより、食・農・環境についての理解を深めさせる。また、家政系科目の体験的な学習により、食育、保育、看護、介護、福祉について考えさせる。部活動の充実・活性化を図ることにより、生活習慣の確立と学習の仕方や学習に取り組む姿勢を徹底し、学習との両立を定着させる。また、部活動、特別活動等をとおして、コミュニケーション能力の育成と人間関係の確立を図り、社会性や帰属意識、安心感を育てる。 <p>◇アドミッション・ポリシー</p> <p>本校の教育理念に共感し、学びたいという強い思いをもち、以下に示すような生徒の入学を期待している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 本校での様々な学習や体験を活かし、大学進学をはじめとする多様な進路実現に向けて真摯に取り組む生徒 ② 得意としてきた教科があり、それを伸ばす意思をもつとともに、幅広い分野の学習にも意欲的に取り組む生徒 ③ 中学校での諸活動や地域社会等の活動に積極的に参加した経験があり、入学後も様々なことに積極的に取り組む生徒 	
<p>目指す学校像</p>	<p>社会に出て自信を持って活躍できる生徒を育成する学校を目指し、具体的な学校像を示す。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 多彩な体験学習や実習を通して、自ら学ぶ意欲と創造性をはぐくむ学校 (2) 産業社会や地域の発展に貢献する力をはぐくむ学校 (3) 地域と共生し、地域に根ざした、開かれた学校 (4) 生徒が個性や得意分野を伸ばし、大学・就職等への進路希望を実現できる学校 (5) 体罰やいじめなどの未然防止の徹底と特別支援教育の整備に取組み、保護者、地域社会から信頼され、中学生やその保護者から選択される学校

育成すべき力	<p>教育目標に基づき、生徒にどのような力をつけさせるか、育成すべき力を示す。</p> <p>(1) 自分で考え判断し、行動する力 (2) 広い視野に立ち、自分の知識や技能を社会全体や人生に生かすことができる力 (3) 自己のあり方・生き方を探し求めていく力 (4) 自ら課題を見つけ解決し、目標を達成する力 (5) 社会の一員として、積極的に役割を果たす力 (6) 他者と積極的に関わりながら、物事を創り上げる力 (7) 相手の立場や意見を尊重し、思いやりの心が持てる力</p> <p>＊本校における様々な教育活動において、自制心や誠実さ、忍耐力や協調性等の「非認知能力」の育成を図る。</p>
---------------	--

2 中期的目標と方策

(1) 学習活動 確かな学力の習得と、目的意識を持った進路実現
<p>① 課題解決能力及び主体的に学ぶ姿勢を育む。 ② 多様な体験的なキャリア教育を推進し、組織的な学習支援を行う。</p>
(2) 進路指導 「自分でつくる、自分の未来」の具現化
<p>① 自らのあり方を考え、それを実現させる能力を育成する。 ② 高大連携を積極的に図り、希望進路実現への道筋とする。</p>
(3) 生活指導・安全指導
<p>高い規範意識を持った主体的な社会の形成者の育成と、安心・安全な学校の確立</p> <p>① 生徒が自立的に社会を形成する主体となる指導を推進する。 ② 防災教育や環境教育を推進し、生徒の安全と健康に関する指導を推進する。</p>
(4) 特別活動・部活動
<p>変化の激しいグローバル化した時代にあって積極的に人生を切り拓いていく総合的な力の育成</p> <p>① 行事や部活動を通して、人間関係形成能力や自己効力感を高める。 ② 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づいて体力向上策を実施する。 ③ オリンピック・パラリンピックレガシーとして、国際理解教育を推進し豊かな国際感覚を育む。</p>
(5) 心身の健康づくり
<p>全教職員による指導・協働体制の確立</p> <p>① 教育環境の整備を含め、たくましい心身の健康づくりを推進する。 ② 教育相談体制を組織化し、学校全体で心身の健康づくりと早期ケアを充実させる。</p>
(6) 募集広報活動
<p>総合学科としての本校教育内容の理解推進と地域への貢献</p> <p>① 本校の特色ある教育活動を積極的に広報し、高い目的意識や強い希望を持った生徒を確保する。 ② 地域に期待され応援される学校を目指し、地域の小・中学校や住民・企業等と連携を図る。</p>
(7) 学校経営・学校運営
<p>「見える化」を推進し、教職員が一丸になった教育活動の展開</p> <p>① 組織的な学校運営を図り、教職員が積極的な意見交換できる環境を整備する。 ② 働き方改革を推進し、また情報共有する中で特色ある総合学科を確立させる。</p>

3 今年度の取組目標と方策

- ・「やり抜く力」の育成と「新しい日常」を意識した取組の推進
- ・「アウトプット」を重視し、生徒の思考場面を与えた「考え抜く授業」を実践する

(1) 教育活動の目標と方策

① 学習指導（「考えさせる授業」の定着）
<p>ア グランドデザインである青総スキルの活用等により「考えさせる授業」を一層推進する。 イ 授業外学習時間の増加を図るため、各教科が工夫した学習指導を推進する。 ウ 学習状況と成績の推移を分析して、生徒の課題解決意欲を引き出す授業を推進する。 エ 教科の枠を超えた相互授業見学や課程や学校の枠を超えた研究授業参加等から、そこで得られた改善点を生徒に還元することで、教員相互の授業力の一層の向上を図る。 オ 「やり抜く力」を合言葉に、自分の未来を創造する意欲を身につかせ、生徒に希望進路実現に沿う学力や実践力を目指させる。 カ 東京都教育ビジョン（第5次）（令和6年3月策定）及び「2050東京」戦略（令和7年3月策定）等に基づくデジタル技術を活用した教育を推進する。特にTeamsを活用したオンライン授業の工夫に努めます教職員のデジタル技術の活用力を高め、オンライン学習活用の着実な定着を図る。 キ 高大接続改革を生徒の期待に応えるよう、さらに具体的に推進する。 ク アウトプットの場面を活用し、言語活動の充実を図る。</p>
② 進路指導（「やり抜く力」を発揮させる場）
<p>ア 「自分でつくる、自分の未来」を実現させる指導の一層の充実を図る。 イ 「やり抜く力」を育てるため、将来を見通した視野と自己肯定感を育みながら、希望進路実現に果敢に挑戦する意欲の向上を図る。 ウ 担当年次教科教員が全員参加して模試等の結果に基づく分析会を実施し、教科で対応策を検討し</p>

改善する。

エ 進路指導部が主導して、ファインシステムを活用した指導を一層推進させる。

③ 生活指導・安全指導（規律ある学校生活の定着）

ア 生徒が自ら誇りをもって、主体的に本校の生活規律を守り改善する態度を育成する。

イ いじめの未然防止・早期発見・早期対応、生徒指導提要（令和4年12月）や「チャレンジサポートプラン」（令和6年10月）に踏まえて取り組む。

ウ 学校いじめ防止対策委員会機能や学校カウンセリング機能を充実させ、学校全体で情報共有し、いじめ総合対策【第3次】に基づいた対応をより推進する。

エ 自殺対策基本法の改正を踏まえた、SOSの出し方教育を推進し、生徒が相談しやすい環境を整える。

オ 校内研修を通して教職員同士が体罰に対して相互に看過しない体制づくりを一層推進する。

カ 青梅総合SNSルールは、生徒会が中心に検討・改善し生徒へ周知していく環境を定着させる。

キ 登下校中事故の未然防止を組織的に取り組み、安全指導の徹底を図っていく。

ク 校則については、学校の実情や生徒の意見、保護者の意識、社会の状況等を踏まえ、適宜見直しを行い、生徒に守ってほしいとする意識をもたせる。

④ 特別活動・部活動（「やり抜く力」の実践的育成の場）

ア 各行事は、感染予防策と時間管理等を徹底した上で、生徒の達成感を高める工夫を図る。

イ 事前指導を徹底し、実行委員が自らの判断で動けるような自律的な行動力を育む。

ウ 体罰や不適切な言動のない指導を前提に、生徒が主役の部活動づくりを一層推進する。

エ 運動部・文化部とともに相乗作用として部活動の活性化をより推進する。

オ 姉妹校交流推進校としてドイツポッパルト市との交流を継続するとともにサブカテゴリー一國との交流も推進し、国際交流というレガシー構築を推進する。

カ 国際交流事業やTOKYO GLOBAL GATEWAY事業を活用したグローバル人材育成を、1・2年次全員参加で実施を継続する。

⑤ 心身の健康づくり（健康生活への組織的対応の推進）

ア 内外に相談業務の見える化を一層推進する。

イ 教員の受容的態度を基本に日常的に生徒の状況を把握し、全教員が必要な情報を共有するとともに、各学期初めには生徒の状況確認を確実にを行い、心身の健康づくりと早期ケアを一層充実させる。

ウ 配置されているスクールカウンセラーを活用した校内研修等を通じて、学校の相談体制・教員のカウンセリングマインドの向上を推進する。

エ 特別な支援が必要な生徒への共通理解と組織的な対応を推進するため、2名の特別支援コーディネーターにより特別支援教育を推進し、個別案件に丁寧に対応する。

オ 「TOKYO ACTIVE PLAN for students」に基づいて体力向上を図り、心身の健康づくりを一層推進する。

カ 自他の生命の大切さを実感させる取り組みを推進するため、組織的な相談体制を充実させ、生徒の心身の悩みに対応するとともにいじめ撲滅を強く決意していく。

キ 特別支援教育推進計画（第二期）第3次実施計画に基づき、生徒理解に関わる校内研修を定期的開催し、生徒理解の推進と教員のカウンセリング能力を高め相談体制の充実を図る。

⑥ 募集・広報活動（情報発信・提供の強化と地域連携）

ア ホームページやXの随時更新により、本校の教育活動をタイムリーに発信し、中学生やその保護者、地域の方々の本校に対する興味・関心及び理解と信頼を得る。

イ 個性ある総合学科として、その取り組みや成果の「見える化」をより推進する情報提供していく。

ウ 近隣中学校と連携を図り、中学校教員や中学生保護者の総合学科理解を一層推進する。

エ 学校説明会や合同説明会等において本校理解を推進するため、「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」に基づき、効果的で印象的な広報手段を検討し、期待に応える総合学科としてアピールしていく。

⑦ 学校経営・学校運営（連携と育成、体制の確立）

ア 学校支援センターとの連携を密にし、職務の効率化を図り学校経営の基盤をより強化する。

イ OJTを活用して各職層の人材育成を図り、課題解決に取り組む活気ある校内体制を推進する。

ウ 生徒や保護者、地域住民からのアンケートに基づいた「期待に応える学校づくり」を推進する。

エ 学校における働き方改革の推進に向けた実行プログラムに基づき、教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する計画的な仕事の進め方により業務の効率化を徹底し、全教職員の働き方改革プランを一層推進する。

オ サービス事故防止研修等を通じて、日頃から事故防止に努め、サービス事故を根絶する。

（2）重点目標と方策

① 教職員のデジタル技術の活用力向上

様々な場面でのシステム活用やオンライン活用を推進する。

② 「考えさせる授業」の定着

各教科で指導内容を検討し、全教員がその観点で相互授業観察を実施する。

③ 高大接続改革

「自分でつくる、自分の未来」の実現と目標設定のため新規開拓を継続する。

④ 読書活動の推進

授業やHR等も含めた教育活動全体で図書館の意図的活用をより推進する。

⑤ 授業外学習時間の増加

各教科が計画的に補習・補講体制を確立し、自習室の積極的な活用も推進する。

⑥ 「やり抜く力」の育成

教育活動全体で、困難にあってもくじけない勇気を育成する。

⑦ 募集・広報活動の充実

本校の認知度を上げるための様々な方策を実施する。

⑧ 国際交流事業の推進

姉妹校との交流や海外修学旅行等、新たな国際交流を含めた事業を推進する。

4 令和8年度の数値目標

項目	今年度の数値目標	6年度（実績）	7年度（実績）
学校満足度(肯定的回答)	・生徒 90% ・保護者 90%	90% 96%	82% 83%
進路決定率	・100%	90%	97%
特色ある大学等合格者数	・農業系大学等合格者 10名 ・看護系大学等合格者 25名	8名 22名	6名 21名
資格取得	・英語検定準2級以上 100名 ・漢字検定準2級以上 20名 ・情報処理検定各種2つ以上合格 選択者全員 ・農業関係資格検定 選択者全員	64名 5名 全員合格 全員合格	75名 29名 全員合格 全員合格
部活動加入率	・90%	83%	92%
ホームページ・X更新回数	・500回	491回	374回
図書館貸出冊数	・3000冊	3120冊	2361冊
学校説明会等参加人数	・3000名以上（中学生・保護者）	3116名	3049名
入学者選抜応募倍率	・推薦入学 3.00倍 ・学力検査 1.20倍	2.86倍 1.18倍	1.97倍 0.97倍
地域連携活動回数	・50回以上	50回	55回